

NARO Research Prize 2015

南西諸島向け飼料用サトウキビの栽培及びTMR利用技術

服部育男¹⁾、神谷 充¹⁾、境垣内岳雄²⁾、樽本祐助²⁾
(¹ 九冲農研・畜産草地研究領域、² 九冲農研・作物開発・利用研究領域)

研究の目的・背景等

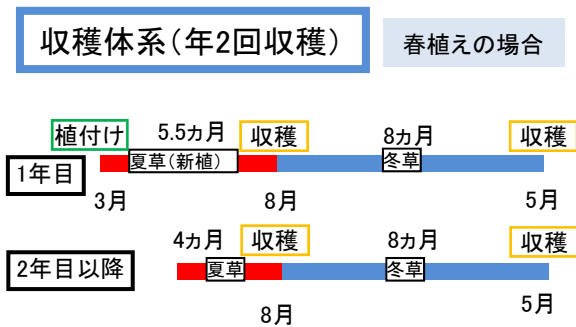
南西諸島の肉用子牛生産は、全国の13%を占め、サトウキビと並ぶ基幹産業であるが、飼料生産基盤が脆弱で、輸入飼料への依存度が高い。そこで、飼料用サトウキビを安定的に多収栽培し、エコフィード(食品残渣)と組み合わせた発酵TMR(混合飼料)に調製し給与する技術の確立に取り組んだ。

研究の概要

飼料用サトウキビ品種「しまのうえ」および「KRFo93-1」を用いて、5月と8月の年2回収穫とする栽培体系を構築した。収穫・調製にはトウモロコシ用機械の適用が可能であった。飼料用サトウキビを主原料とした発酵TMRは、輸入飼料より安価に生産でき、発酵品質は良好で、繁殖牛の子牛生産性や子牛の増体も輸入粗飼料を用いた慣行飼料と同等であった。本技術は、南西諸島の肉用牛繁殖経営の安定化に有用である。

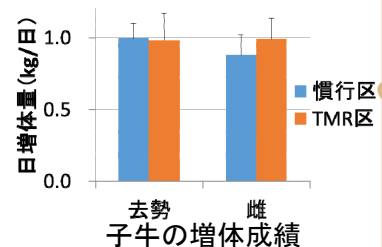


育成した2つの飼料用サトウキビ品種



神谷 服部

境垣内 樽本



日増体量(kg/日)

去勢 雌
子牛の増体成績

農研機構
NARO 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

